

歌舞伎 (一)

中国有各式各样的舞台艺术，有戏曲、话剧、歌剧，也有音乐剧。其中，京剧和昆曲就属于传统“戏曲”。同样，日本也有自己的传统“戏曲”，具体来说就是“歌舞伎”和“能剧”。能剧和昆曲比较类似，讲求风雅，深受文人阶层的推崇。而歌舞伎则和京剧较为相像，相比之下更加通俗，广受老百姓的喜爱。在2008年和2010年，歌舞伎和京剧分别被联合国教科文组织列入了世界非物质文化遗产名录，成为了日中两国最具代表性的传统舞台艺术，这两种戏曲也从此扬名世界。

日本的歌舞伎形成于17世纪江户时代前期，和京剧非常相像，演员们会把脸涂得雪白，在扮演一些个性鲜明的角色时还会画上“隈取”，也就是脸谱。歌舞伎的戏服和念白也都非常传统，有一套固定的“程式”。我第一次看中国的京剧时，就深深感到念白的抑扬顿挫和戏服的绚丽多彩这些特点都和歌舞伎极其相似。

在这里，我想给大家念一段歌舞伎里脍炙人口的念白，选自著名剧目《白浪男子五人组》，是一个盗匪帮派的头目介绍自己时所说的一段话。

这段念白的大意是：“我某本不配站在这里大言不惭地说我自己，可我还是想说道说道。我出生在静岡滨松，十四岁离开父母，以偷盗行骗为生。但我盗亦有道，素来锄强扶弱，在东海道町町，人人都称我一声义匪，官府已对我发榜通缉。我这辈子过得就像在走钢丝，颤颤悠悠险情不断，就这样活到了四十岁。我正是日本全国人尽皆知的盗匪帮派首领，日本駄右卫门是也。”

接下去，我就来学一学日本的歌舞伎演员是怎样演绎这段念白的。不过，我不是专业演员，只能有样学样，大家听一听感受一下气氛就好。

「問われて名乗るもおこがましいが、生まれは遠州浜松在、十四の時から親に離れ、身の生業も白波の、沖を越えたる夜働き、盗みはすれど非道はせず、人に情けを掛川から、金谷をかけて宿々に、義賊と噂高札に、廻る配布の盪越し、危ねえその身の境涯も、最早四十に人間の、定めはわずか五十年、六十余州に隠れのねえ、賊徒の張本、日本駄右衛門」

下面，我们来聊聊日本的歌舞伎演员。中国的演员大致可以分为戏曲演员、话剧演员、歌舞演员以及影视演员等几个类别。中国电影演员成龙在日本也非常出名，他小

时候曾经是一名京剧演员，不过现在已经不再登京剧舞台了。在中国，京剧和昆曲等戏曲演员很少会出现在电视剧或电影中。

相比之下，日本的歌舞伎演员很乐意出演影视剧。歌舞伎有着四百年的历史，歌舞伎演员的表演基本功非常扎实，在影视剧中往往也会有出色发挥，塑造的角色令人过目难忘。比如电视剧《半泽直树》第二部，登场的演员中有好几位都是歌舞伎演员。首先是国税厅和金融厅的精英官员黑崎骏一的扮演者片冈爱之助，他在歌舞伎界享有盛名。在NHK大河电视剧《麒麟来了》中，他还扮演了战国时代极富威望的领主今川义元，塑造的人物形象丰满而厚重。另外，在《半泽直树》里扮演伊佐山泰二的第四代市川猿之助，和扮演常务董事大和田的香川照之也都是歌舞伎演员。在电视剧里，这两个人物是反派角色，和主角势不两立。两位歌舞伎演员将这两个“坏蛋”演绎得有血有肉，非常富有个性，他们游刃有余的演技给《半泽直树》这部剧增色不少，拓展了剧中的世界。

顺便提一句，其实香川照之还是市川猿之助的表哥，他的父亲是歌舞伎名伶第二代市川猿翁。市川猿翁和中国有着很深的渊源，曾经和中国京剧界开展过合作，关于这段日本歌舞伎与中国京剧的交流史，等下次有机会我再给大家好好讲一讲。

除了《半泽直树》这部电视剧以外，还有一位歌舞伎演员也是影视剧中的老面孔，他就是第二代中村狮童。他曾经在2008年和2009年上映的中国电影《赤壁》中扮演吴国的武将甘兴。2016年，他又在电影《死亡笔记：点亮新世界》里饰演了死神，可以说戏路非常广。另外，在《麒麟来了》中扮演正亲町天皇的也是日本歌舞伎界的元老级人物五代坂东玉三郎。他还在波兰导演安杰依·瓦伊达执导的电影《纳斯塔兹雅》中扮演了一位充满神秘色彩的女性，过去还曾登上过昆曲的舞台，扮演杜丽娘。

很多听友可能都没有看过日本的歌舞伎，不过，在这些电影和电视剧里，或许大家都已经见识到了日本歌舞伎演员的风采。

[点击收听](#)

《加藤老师来开讲!》是NHK日本国际传媒中文广播节目《波短情长》中的小栏目，特邀日本明治大学教授加藤彻深入浅出、诙谐幽默地讲解日本文化。您有没有想要了解的日本文化或习俗？欢迎给本节目来信或留言！



歌舞伎（一）

中国の舞台演劇には「戯曲」と「話劇」、「歌劇」、「音楽劇」などがあります。中国の京劇や崑曲は「戯曲」です。日本にも「戯曲」に相当する舞台演劇があります。歌舞伎と能楽です。

能楽と崑曲は優雅で文人階層に好まれました。歌舞伎と京劇は通俗的で大衆に好まれました。歌舞伎は2008年に、京劇は2010年に、ユネスコの無形文化遺産に登録され、それぞれ日本と中国の伝統文化を代表する舞台芸術として、世界的に有名です。

歌舞伎は17世紀、江戸時代の前期に成立しました。歌舞伎と京劇は、よく似ています。いずれも、美男美女は顔を白く化粧し、癖のある人物は顔を隈取りで塗ります。衣装もセリフも伝統的で、演技の型があります。私は初めて中国の京劇を見たとき、セリフの抑揚とか、豪華絢爛な色彩の衣装など、歌舞伎の風格にそっくりだと感じました。

ここで、歌舞伎の名セリフを紹介しましょう。歌舞伎の有名な演目『白波五人男』で、盗賊団のリーダーが自己紹介のセリフを述べる場面です。まず、セリフの大意を現代の言葉で説明すると、

「私は自己紹介するほどの男ではないけれど——私の生まれは静岡の浜松。14歳で親から離れ、選んだ職は盗賊稼業。盗みはするが非道はしない。弱きを助け強きをくじき、東海道の町中で、人々からは義賊と呼ばれ、役人からは指名手配。綱渡りのような人生を生きぬき、気づけば四十歳。日本中で有名な、盗賊団の張本人。それが私、日本駄右衛門だ」

これを歌舞伎のセリフでは、次のように言います。私は素人ですが、ちょっと真似してみましょう。

「問われて名乗るもおこがましいが、生まれは遠州浜松在、十四の時に親に離れ、身の生業も白波の、沖を越えたる夜働き、盗みはすれど非道はせず、人に情けを掛川から、金谷をかけて宿々で、義賊と噂高札に、廻る配布の盪越し、危ねえその身の境涯も、最早四十に人間の、定めはわずか五十年、六十余州に隠れのねえ、賊徒の張本、日本駄右衛門」

次に歌舞伎の俳優について説明します。中国の俳優は、「戯曲演員」「話劇演員」「歌舞演員」「影視演員」などに分

かれます。日本でも有名な映画俳優のジャッキー・チェンさんは、子供のころは京劇の俳優でしたが、今はもう、京劇は演じません。中国では、京劇や崑曲の名優がテレビドラマや映画に出演することは稀です。

日本の歌舞伎俳優は、積極的にテレビドラマや映画に出演します。歌舞伎俳優の演技力は、四百年の伝統をもつ歌舞伎の「芸」に裏打ちされているため、映画やドラマの中でも圧倒的な存在感を感じさせます。

テレビドラマ『半沢直樹 2』にも歌舞伎俳優が出演しています。国税庁・金融庁のエリート官僚・黒崎駿一を演じた片岡愛之助さんは、歌舞伎の名優です。片岡愛之助さんは、昨年のNHK大河ドラマ『麒麟がくる』では、戦国大名・今川義元を、威厳に満ちた重厚な人物として演じました。

『半沢直樹』で伊佐山泰二を演じた四代目・市川猿之助さんと、大和田常務を演じた香川照之さんも歌舞伎俳優です。大和田常務と伊佐山泰二は、主人公の敵役ですが、2人の歌舞伎俳優は個性豊かな悪役を自由に演じて、『半沢直樹』の世界を大きく広げました。なお、香川照之さんは市川猿之助さんの従兄です。香川照之さんのお父さんは歌舞伎の名優、二代目・市川猿翁です。市川猿翁は、中国の京劇と合作するなど中国とも縁が深いのですが、歌舞伎と京劇の交流については別の機会に述べます。

このほか、二代目・中村獅童さんは、歌舞伎の舞台に立つかわら、2008年と2009年の中国映画『レッドクリフ』で呉の武将・甘興を演じたり、2016年の映画『デスノート Light up the NEW world』では死に神リユークを演じたり、幅広く活躍しています。『麒麟がくる』で正親町天皇を演じた五代目・坂東玉三郎さんも、歌舞伎の名優ですが、ポーランドのアンジェイ・ワイダ監督の映画『ナスターシャ』で神秘的な女性を演じたり、中国で崑曲『牡丹亭』の杜麗娘を演じました。

歌舞伎を見たことのない人も、映画やテレビドラマの中で、知らないうちに歌舞伎俳優を見たことがあるかもしれません。

[中国語音声はこちら](#)

「加藤先生の開講コーナー！」はNHK国際放送のラジオ番組『波短情長』のコーナーです。明治大学の加藤徹教授が、日本の文化について楽しく解説します。あなたの知りたい日本の文化や風習は何ですか？メッセージもお待ちしております。

